

事業計画書

| | |
|-----|----------------------------|
| 事業名 | 「高校進学のための学力アップ教室」事業 |
| 団体名 | 認定NPO 法人 外国人の子どものための勉強会 |

| | |
|---------------------|--|
| 取り組もうとする松戸市のテーマ(課題) | <p>松戸市内の小中学生の外国人の子どもの数は300人以上で、子ども達は日常会話を比較的短期間に習得するが、漢字、文章を書くのが難しく、教科書を勉強するのはもっと難しい。</p> <p>そんな中、高校受験を控えた生徒にとって、外国人枠で受験可能な一部の高校はあるものの、希望する学校に入るには高いハードルがある。また、前期試験に失敗した生徒は、後期は5教科で受験しなければならない。</p> <p>そこで、本提案の事業名「高校進学のための学力アップ教室」を実施することで、日本語力・学力にハンディキャップのある子ども達の進学支援を行う。</p> |
| 事業の目的 | <p>高校進学は人生の一ステップであるが、学力・日本語力でハンディキャップのある子どもたちが高校進学を希望しながら高校に入学できないと、その子どもの人生の可能性を狭めてしまう。私たちは日本人の子ども達と同じように外国人の子どもも分け隔てなく、同じように地域で元気に成長していくよう支援していきたい。</p> |
| 事業内容 | <p>1 事業内容</p> <p>1) 「高校進学のための学力アップ教室」の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者：外国出身の中学2、3年生、中学既卒業生 当勉強会の各教室に普段通っている生徒のみならず、新たな希望者も受け入れる ・スタッフ：当勉強会の会員スタッフのみならず、新たなスタッフ（現役の先生、大学生、社会人など指導スキルのある外部講師）も集め7月末までにスタッフの研修も行いスキルアップする。 この研修は下記2)に詳細記述。 ・教室：当勉強会が普段使っている常盤平駅前教室、文化ホール教室以外に公共施設（会議室など）を探す ・対象教科：国語（日本語）、英語、数学の3教科 ・教室開催期間：H28/9～H29/2の6か月間、日曜日の午後2時間 日曜教室：6か月間（日曜日）、3教科 冬休みにほんご教室：冬休み限定（平日）で、作文、面接に集中 <p>2) 外部講師によるスタッフ研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容：国語（日本語）、英語、数学の3教科についてスタッフのスキルアップ ・開催期日：7月末までに3回開催 |

- ・研修のポイント：外国の生徒はなぜ学力が低いのか、日本語力が十分でないこともあるが、日本と母国での学習内容の違いもある。外国人の子ども特有の背景を理解した学習の進め方を習得し、教室学習に活かしたい。例えば、国語（日本語）では、生徒の母語の影響による誤をなくするため、特に学習者が多い中国語との対照言語学を学ぶなども有用である。英語では、個人の実力に応じた指導、あるいは日本語力の不足を補いつつ、英語の学習をどのように進めたらよいかなどを学ぶ。数学では、計算の仕方が違うなどを知ることや教科書を使つての日本語指導を学ぶなど。

3) 学力評価テストの作成及びその結果の共有化

- ・本事業のポイントである、主要3教科の「学力評価テスト」を8月末までに作成して、その使い方をスタッフに周知。
- ・教室開校と同時に、9月にまず「学力評価テスト」を実施し、各教科の項目（単元）毎に何ができ、何ができないかを明確にする。換言すると、何ができ、何ができないかの『見える化』をしっかり行う。その結果を生徒と共有する。
- ・教室では各生徒毎のできなかつた項目に注力して、できるように指導し、生徒に自信を持たせる。
- ・翌年2月に「学力評価テスト」を実施し、できなかつた項目ができるようになったことを確認し、生徒に自信を持たせて高校受験に臨む。

4) 学力評価テスト結果と高校受験結果の摺合せ

- ・3月に、各受験生徒毎に、受験問題の何ができ、何ができなかつたかの摺合せを行う。
- ・その結果を整理して、「学力評価テスト」結果と受験結果の相関を把握する。相関が高ければ、次年度も同じように「学力評価テスト」を有効活用する。一方、相関が低ければ、「学力評価テスト」を見直したり、指導方法の検討を行い次年度に備える。

2 スケジュール

| | 具体的な取り組み | 実施体制、対象、場所など |
|----|---|--|
| 4月 | 助成金交付決定後、 ・本事業の各担当者、年間 詳細スケジュール作成 と摺合せ | 日曜教室担当スタッフ・常盤平 教室他 |
| 5月 | ・3教科（国・英・数）学 力評価テスト作成の検 討開始 ・スタッフ研修（第1回） | 日曜教室担当スタッフ・常盤平 教室他 スタッフ研修には専門の外部 講師を招く（第1回～第3回開 催） |
| 6月 | ・スタッフ研修（第2回） | |
| 7月 | ・スタッフ研修（第3回） | |
| 8月 | ・学力評価テスト完成 | |

| | | | |
|------------------------------------|--|---|---|
| | 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ・日曜教室開校 ・学力評価テスト実施 ・テスト結果を生徒と共有化 | 日曜教室担当スタッフ・外国人中学2・3年生及び外国人中学既卒生、市民会館他一部、外部のスタッフを招く。以下同様) |
| | 10月 | ・日曜教室 | 同上 |
| | 11月 | ・日曜教室 | 同上 |
| | 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ・日曜教室 ・冬休みにほんご教室開校 | 日曜教室は同上 冬休みにほんご教室は冬休みにほんご教室担当スタッフ・外国人中学3年&中学既卒生、文化ホール国際友好ルーム |
| | 1月 | <ul style="list-style-type: none"> ・冬休みにほんご教室 ・日曜教室 | 同上 |
| | 2月 | <ul style="list-style-type: none"> ・日曜教室 ・学力評価テスト実施 ・テスト結果を生徒と共有化 | 同上 |
| | 3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・日曜教室 ・学力評価テスト結果と高校受験結果の摺合せ ・本事業の総括 | 日曜教室担当スタッフ・常盤平駅前教室他 |
| 既存の事業からステップアップする部分 ※ステップアップ助成のみ | <p>これまでも自主事業で、日曜教室、冬休みにほんご教室を開催してきた。その教室を受講することで受講生は学力がアップできたと考えている。が、受講前に何ができなく、受講後にそれができるようになったかが不明確のままに終わっていた。</p> <p>その見えなかったところを『見える化』することがこの事業のステップアップのキーポイントである。これにより、これらデータは次年度の教室活動にも、有効に活かせると考える。</p> | | |
| 事業の目標 | <p>目標数値を受講生中3受験者の高校入試合格率 <u>100%</u> としたいが、当勉強会は「進学塾」ではないので、次のような可視化できる目標を設定した。</p> <p>① 教室を開講する9月に自作の3教科の学力評価テストを実施し、各受講生が、何ができ、何ができないかを生徒と共に把握し共有化する。</p> <p>② 翌年2月（前期試験の受験前）に同様の学力評価テストを実施し、①のできないところができるようになったことを確認し、生徒に自信を持たせる。</p> <p>③ このように、中3のみならず、受講生の できる／できないを『見える化』して、個々の生徒の不安を軽減し、一人でも多くの生徒を合格させる。</p> | | |
| 今後の展望 | <p>上述の事業目標に示すテストによる『見える化』の資料（学力評価テスト結果）(A) と高校受験結果(B)を突き合わせることで、AとBの相関が把握でき、次年度の取組み（できるだけ多くの生徒たちを合格させたい）に活かす。</p> | | |

事業の予算概要

(単位：円)

【収入】

| 科目 | | 金額 | 積算内訳 |
|-----------------|--------------|-----------|-------|
| 団体 | 当勉強会からの拠出金 | ¥ 52,200 | 事業費より |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | 自己資金の合計額 (A) | ¥ 52,200 | |
| 市 | 市民活動助成金 (B) | ¥ 300,000 | |
| 合計額 (C) = (A+B) | | ¥ 352,200 | |

【支出】

| 科目 | | 予算額 | 積算内訳 |
|-----------------|--------------|-----------|--|
| 助成金の交付対象経費 | 報償費 | ¥ 288,000 | 3000円/回×3名 (外部スタッフ) ×31回 (日曜、冬休み含む) 3000円/回×3名 (外部講師) ×1回 (研修日) |
| | 会場使用料 | ¥ 19,200 | 日曜教室：200円/h×3h×25回 冬休みにほんご教室：200円/h×3h×7回 |
| | 書籍購入費 | ¥ 15,000 | 学力評価テスト作成のため |
| | 通信費 | ¥ 5,000 | 郵便代 |
| | 消耗品費 | ¥ 20,000 | コピー用紙、インク、その他文房具 |
| | 対象経費の合計 (D) | ¥ 347,200 | |
| その他経費 | 会員交通費 | ¥ 5,000 | 電車、バス代 |
| | その他経費の合計 (E) | ¥ 5,000 | |
| 合計額 (F) = (D+E) | | ¥ 352,200 | |

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が、対象となる経費 (D) 欄の90%以内であること。
- 2 自己資金 (A) 欄が、「対象経費 (D) 欄の10%以上」であること。
- 3 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。